紙と私

紙物コレクター なぎら健壱

世の中には、ありとあらゆる物のコレクターが存在する。その中にあって、紙物専門に集めている人たちを、紙物コレクター、あるいはペーパー物コレクターと呼ぶ。

紙物などというと、なんだかピンとこない人がいるかも知れないが、チラシやパッケージなど、とにかく紙でできている物を集める人たちのことを、総称して紙物コレクターと呼ぶのである。

おそらく、考えつく物総てにコレクターがいてもおかしくないというぐらい、紙物コレクターの数は多い。とにかく、考えつく限りのありとあらゆる物を貪欲に集める。

今、あなたが集めようとしている物があれば、とうにそれはコレクターの手で集められていると思ってもらっても大袈裟ではない。

駅弁や煙草のパッケージ、映画のチラシや自動車のパンフレットなどという、安易に考え付くものなど、もうコレクターの手で何千という数が集められていると思ってもらっていい。そうした物は、戦前からのコレクターを相手にしなければならないだろう。

紙物コレクターには大きく分けて、二種類の人間が存在する。とにかく人が集めていない物であれば何でもいいとばかりに、猛進して数を集めるタイプ。もうひとつは、ある物にこだわって、それのみをひたすら集めるタイプである。

前者は、割と金銭的な価値を生み出さなくとも良いという考えの人が多い。ところが後者になると、後に金銭的な価値を生み出す物が多い。どうしても手に入れたい物があれば、金に糸目はつけないという人たちである。しかし共に数と経年によって、価値を見出すことがある。

斯く言うアタシも、実は紙物のコレクターである。で、どちらかと言うと、前者の部類であろう。思いつくままに羅列すると、納豆の包み紙、マッチのラベル、ホテルの石鹸のパッケージ、新聞に入ってくるマンションなどの折り込み広告（航空写真に限る）、著名人の名刺（サイン入り）などがそれである。

他人からすればゴミである。しかしこのゴミということが重要なのである。興味のない人から見ればゴミということは、捨てられて然る物である。捨てられてしまう運命だからこそ、数と経年によって価値を生む。そこには必ず時代的な、あるいは庶民文化的な価値が出てくるものなのである。

実は近所に、同じ趣味を持つ人間がふたり住んでいる。片や庶民文化研究家の町田忍氏、そして漫画家のやくみつる氏のおふたりである。彼らも、ゴミもどきの物を収集している。しかしその数と種類からして、立派な文化財産となり得ているのである。

彼らは、今何を集めているのか人様に公表しない。ある程度の数が集まるまでは、何を集めているかなどと軽はずみな言動は避ける。ある程度数が集まったとき、つまり誰も追随ができないと踏んだとき、初めて口を開く。それを考えると、今この時間もおちおちできないのである。

なぎら健壱（なぎら・けんいち）●1952年東京都生まれ。70年中津川フォークジャンボリーに飛び入り参加したのがきっかけとなり、アルバム「万年床」でデビューする。現在はコンサート、テレビ、ラジオ、執筆など幅広く活躍する。近著に『ぼくらは下町探険隊』『歌い屋だら』。

PAPER Q&A Vol.9

Q. インクジェット用紙ってどんな紙ですか?

A. 高画質を表現できるように、紙の上にインク吸収層を設けた紙です。

インクジェット用紙を使用して年賀状を出す人が増えています。家庭用のインクジェットプリンターが普及して、誰にでも簡単にカラープリントができるようになったからです。インクジェットは、ごく細いノズルからインクを吹き出し、紙に吸収させて印字する記録方法です。この方式に対応するために、細かな孔を多数持つインク吸収層を設けたインクジェット用紙が開発されました。表面にたくさん空いている細かい孔にインクが浸透しながら定着するためインクの吸収性が高く、にじみにくいなどの特性があります。

新たなニーズから新たな紙が生まれています。

インクジェット紙年賀葉書

家庭で、オフィスで 古紙リサイクルの輪、広げよう! リサイクル

◆次回は2月3日号、いとうせいこうさんです。

photo : Yohei Maruyama